

発刊によせて～理事長挨拶～

日本シミュレーション医療教育学会理事長
大学改革支援・学位授与機構研究開発部
鈴木利哉

春らしい陽ざしを感じるこの頃、ご健勝にお過ごしのことと存じます。オミクロン変異株の急激な流行で大変苦勞されていることと推測いたします。

日本シミュレーション医療教育学会は2022年（令和4年）、会員の皆様のご支援に支えられて創立10年目に入りました。2013年に日本M&S医学教育研究会とモデル&シミュレーション医学教育研究会のふたつの研究会が対等合併して本学会が創立され、初代理事長には奈良信雄先生（日本医学教育評価機構理事長）が就任しました。年1回学術大会を開催し、年1回査読ありの学術誌・日本シミュレーション医療教育学会雑誌を刊行することを基本にスタートしました。鈴木利哉（大学改革支援・学位授与機構教授）が2016年から第2代理事長を務めています。

2022年1月8日現在、会員登録者数は650名です。退会者がいらっしゃるので実際の会員数は400名です。職種別では、医師と看護師が最も多く、薬剤師、歯科医師、臨床工学士、模擬患者、理学療法士、救命救急士、医学生、放射線技師等多職種の会員がおり、チーム医療を支える多職種連携チームの主要な構成メンバーが集結しております（右図）。

2021年度の年会費を納入してくださった会員は約150名です。このニュースレターを読まれた方で年会費未納の方、ぜひ、年会費をお支払いください。年会費は1年分4,000円です。年会費を振り込むと学会誌最新号がお手元に届きます。また、学会の会員メールが届きます。

（振込先）

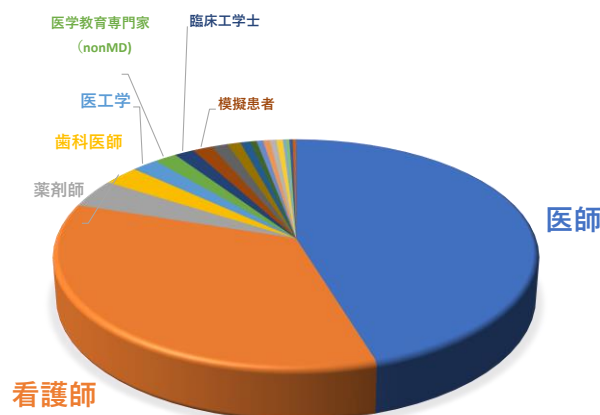
りそな銀行小平支店 店番768

普通口座番 4318509

口座名義 日本シミュレーション医療教育学会

昨年、米国Society for Simulation in Healthcare (SSH) とのaffiliation programにわが国のシミュレーション医療教育団体として参加を申し込みました。日本シミュレーション医療教育学会は国際的なシミュレーション医療教育の学会と連携することで国際的な発展を考えております。国内的にはシミュレーション医療者教育を行っているわが国のシミュレーション3学会（日本看護シミュレーションラーニング学会、日本医学シミュレーション学会、日本医療教授システム学会）と連携し、国内医療シミュレーション4学会が一致協力してわが国のシミュレーション医療教育を世界に冠たるものとするための努力を行うことを誓います。

わが国のシミュレーション医療教育を担う人材を育成するため、シミュレーション教育専門家を育成する制度を構築していく準備を行っております。米国SSHはシミュレーション教育に関わる個人認証である教育指導者認証(CHSE)とオペレーションスペシャリスト認証(CHSOS)、シミュレーション教育施設認定を行っております。その制度を大いに参考にしたいと考えております。今年10月22日（土）に京都大学大学院医学研究科（任 和子大会長）において「シミュレーション医療教育における心理的安全性（仮）」をテーマに第10回日本シミュレーション医療教育学会を開催します。来年2023年は東京慈恵会医科大学（万代康弘大会長）において第11回日本シミュレーション医療教育学会を開催する予定です。会員多数のご参加を期待しております。



会員の職種別構成図

第10回日本シミュレーション医療教育学会学術大会のご案内

京都大学大学院医学研究科 先端看護科学コース
先端中核看護科学講座 生活習慣病看護学分野
第10回日本シミュレーション医療教育学会学術大会
大会長 任和子

新型コロナウイルスが世界に蔓延し丸二年、卒前教育においては、対面授業からオンライン授業へ、臨地実習は学内実習への切り替えを余儀なくされました。卒業後教育においても、人数制限を設けたなかでの集合研修やオンライン研修への切り替え、従来の集合研修から部署教育への置き換えなど、状況に応じた対応が求められています。

この二年で、医療を取り巻く環境は大きく変化しました。VUCAと呼ばれる時代だからこそ、施設や職種を越えて未来の医療職の育成について語り合い、ともにより良い医療教育を創出する時間を共有できる場が必要であると考えています。

本学術集会のメインテーマを、「シミュレーション医療教育における心理的安全性」と掲げました。心理的安全性とは、「対人関係のリスクを取っても安全だと信じられる職場環境」¹⁾ のことであり「職場の仲間が互いに信頼・尊敬し合い、率直に話ができると思える場合に存在する」²⁾ とされています。本学術大会では、特別講演として東京医科歯科大学の緒方泰子先生をお招きし、シミュレーション医療教育における心理的安全性について、ご講演いただく予定です。また、インターナショナルセッションとして聖アンソニー大学 角田みなみ先生のチームより、米国の看護大学における多職種協働シミュレーション教育について講演いただきます。その他、シンポジウムや座談会、共済セミナーなど多くの企画を準備しております。

本学術大会を、組織や職種の垣根を越えて、ともに集い合い、シミュレーション医療教育の可能性について語り合う場にしましょう。なお、現時点では対面を予定しておりますが状況によりオンライン・オンデマンドでの開催になるかもしれません。多くの皆さまのご参加、研究成果のご発表を、心よりお待ち申し上げます。

第10回
日本シミュレーション医療教育学会学術大会

シミュレーション医療教育における 心理的安全性



2022年 10月 22日 土
京都大学/京都教育文化センター
〒606-8397 京都府京都市左京区聖護院川原町53

大会長 任 和子 (京都大学大学院医学研究科 教授)

大会プログラム

インターナショナルセッション	シンポジウム
「米国の看護大学における多職種協働シミュレーション教育」 角田 みなみ ほか (聖アンソニー看護大学)	「(未定)」 藤野 ユリ子 (福岡女学院看護大学) ほか
特別講演 「シミュレーション医療教育における心理的安全性の可能性」 緒方 泰子 (東京医科歯科大学)	ワークショップ 「発問と応答」(仮) 高橋 平徳 (愛媛大学) 高橋 聖子 (折尾愛育高等学校)

演題募集・参加登録

演題募集期間	参加登録
2022年5月1日(日)～6月30(木) 必着	2022年5月1日(日) 開始

【運営事務局】京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 先端看護科学コース
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53
☎ 075-751-3946 ✉ jasehp10-gakkai@umin.ac.jp

<引用文献>

- 1) エイミー・C・エドモンドソン 著、野津智子 訳、村瀬俊郎 解説：恐れのない組織 「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす、英治出版、P30, 2021.
- 2) 前掲書1)



JASEHP国際交流チームがスタートしました。

帝京大学 シミュレーション教育研究センター 金子一郎（国際交流担当理事）

国際学会で「あなたは何をしていますか？」という質問を受けると、「私は日本でシミュレーション教育をやっています」と答えますが皆様はいかがでしょうか。詳しく言えば「〇〇シミュレーションセンターの所属で、JASEHPの会員です」という答えになるでしょうが、JASEHPが何かを説明せねばならず少し苦勞します。こんなとき、私たちは自分が何者であるかという質問の答えとなるアイデンティティを、どう表現するのがよいでしょうか。

まず、国際学会に目を向けます。世界のシミュレーション医療教育を展開している国際学会として、SSH (Society for Simulation in Healthcare)あるいはSESAM (Society in Europe for Simulation Applied to Medicine)があります。また、英国のASPiH (Association for Simulation Practice in Healthcare)、メキシコシミュレーション医療教育学会 (SMESICS)など、各国内で活動するシミュレーション教育関連学会が多数存在いたします。国内に目を向けますと、日本の医療シミュレーションの学会は主として4つあり、それぞれがその専門分野で活動しています。いくつかの学会で個別のトレーニングコースのインストラクター資格を設定していますが、シミュレーション教育指導者の個人一般認証は看護シミュレーションラーニング学会の認証のみです。海外の学会の認証で日本からの申請が可能なものとしてSSHの教育指導者認証 (CHSE) とオペレーションスペシャリスト認証 (CHSOS)がありますが、現在のところ日本国内でSSHの認定施設はありません。英国のASPiHにも教育指導者認証、施設認定制度があり、欧州のシミュレーション医療教育学会SESAMにも教育指導者認証活動があります。それぞれの学会においてWebを通したりソース共有は進んでおり、会員登録することで入手可能です。

国際的な前後関係の中での存在意義を確認するためのみならず、シミュレーション教育実践者が日本におけるシミュレーション教育のキャリアを形成していく上でも認証制度、施設認定制度が必要です。さらに、多数の海外のシミュレーション医療教育学会と交流することで、日本のシミュレーション医療教育関連学会の学術的質の向上、基本認証制度の策定に貢献できるであろうと考えます。まず、手始めにJASEHP国際交流チームで、SSHとのAffiliation programの契約締結を進めています。この試みを契機とし、日本シミュレーション医療教育学会の存在とその位置づけが明確となり、私たちの真のアイデンティティが確立することを期待しています。「JASEHPの認証を受けたシミュレーション教育者です」と海外で普通に自己紹介ができるよう、私は、五十嵐寛理事、浅田義和理事とともにJASEHP国際交流担当チームとして尽力したい所存です。

J-STAGEでの論文公開について ～よりオープンな学術誌を目指して～

自治医科大学医学教育センター 浅田義和（広報担当理事）

日本シミュレーション医療教育学会では、これまで学会誌の内容をメディカルオンラインと医中誌に掲載しておりました。今回、これに加えて、J-STAGEへの論文掲載・公開を開始いたしました。J-STAGEの特徴を以下に示します。

「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)は、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が運営する電子ジャーナルプラットフォームです。J-STAGEは、日本から発表される科学技術 (人文科学・社会科学を含む) 情報の迅速な流通と国際情報発信力の強化、オープンアクセスの推進を目指し、学協会や研究機関等における科学技術刊行物の発行を支援しています。
(<https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/JstageOverview/-char/ja> より引用)

上述の通り、J-STAGEではオープンアクセスが基本となります。このため、J-STAGEに掲載された論文については、会員・非会員問わず、どなたでも利用可能となります。本学会の知見をより広く発信していくための一歩となることを期待しております。一方、会員特典としての側面を残す必要も考慮し、J-STAGEでの公開は、学会誌掲載のおよそ1年後といたしました。すなわち、**最新巻の論文は学会誌のみで閲覧可能であり、アーカイブとして過去のものが増加されていくことになります。**

なお、オンライン媒体という特徴を活かし、重要性・速報性の高い論文については、理事会や編集委員会での議論を踏まえて、必要に応じて早期公開していきたいと考えております。また、学会誌の巻末に掲載される前年度大会の抄録集についても、大会時に一般公開されることも多いことから、可能な範囲での早期掲載を検討しております。

最後になりますが、最新のものから順次作業を進めているため、巻号の古いものについては掲載までしばらくお待ちいただくこととなります。メディカルオンラインでの掲載も継続されていますので、必要に応じて両者を併用いただければ幸いです。

J-STAGE 日本シミュレーション医療教育学会雑誌
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jasehp/_pubinfo/-char/ja



会員短報

第1回

シミュレーション教育の質を担保する認証制度
～シミュレーションスペシャリストの国際資格CHSOSのご紹介～

国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター
国際医療福祉大学成田シミュレーションセンター（SCOPE）
仲 俊行

シミュレーション医療教育者にとって強みとなる要素とは何でしょうか？成人学習理論や教授設計理論を纏い最新のシミュレータを装備することは大きな武器になりますが、もうひとつ忘れてはならないのがシミュレーションスペシャリストの存在です。シミュレーションスペシャリストは、シミュレータの操作やシナリオプログラミング、機器のセットアップやメンテナンスといった技術面のみならず、様々な教育内容をサポートする役割を担っています。2013年の欧州医学教育学会（AMEE）の報告では、シミュレーション教育チームにシミュレーションスペシャリストを含めることが推奨され、翌2014年には米国医療シミュレーション学会（SSH）が、シミュレーションスペシャリストの業務を包括した資格を開発しました。それがオペレーションスペシャリスト認証（CHSOS）です。CHSOSの申請には2年以上のシミュレーションの実務経験が必要で、書類による一次審査と多肢選択式のCBTによる二次審査に合格することで認証されます。国際看護シミュレーションラーニング学会（INACSL）の標準化委員会では2017年以降、シミュレーション教育プログラムの目標とアウトカムをサポートするためには、教育の担当者とともにシミュレーション運用の担当者を置くことが最低条件であると明記しています。このシミュレーション運用に必要な要素を網羅している資格がCHSOSになります。

CHSOSはシミュレーションの発展に伴い需要が高まった結果開発された資格です。シミュレーション業務の分業化が進んでいる米国では、シミュレーションスペシャリストを専門職として受け入れる体制が整っている為、CHSOSの人気も高いと聞きます。筆者はCHSOSの一人として、日本でもシミュレーションスペシャリストが専門職として確立される日が来ることを願っています。シミュレーションスペシャリストの皆さん、共に頑張りましょう！

編集委員会
からの
お知らせ

編集担当理事 駒澤伸泰、今福輪太郎

第10巻の製作は非常に順調で、2022年9月初旬には皆様の下にお送りできると思います。

第10巻から誌上特集始めました。

第1回は、「Society5.0におけるシミュレーション医療教育へのメッセージ」

～本邦におけるシミュレーション医療教育に、開拓者たちの経験を活かす～です。

奈良信雄 鈴木利哉 阿部幸恵 荒木孝二 高橋優三 志村俊郎（敬称略）の先生方からご寄稿をいただいております。



JASEHP
日本シミュレーション医療教育学会

理事長：鈴木利哉

副理事長：平形道人、任 和子

総務担当：藤倉輝道、林 克裕

編集担当：駒澤伸泰、今福輪太郎

企画担当：五十嵐寛、石川和信

教育担当：鈴木康之、阿部幸恵

広報担当：浅田義和、駒澤伸泰

渉外担当：阿部幸恵、宮下 渉

国際交流担当：金子一郎、五十嵐寛、浅田義和



<https://jasehp.jp>

発行日：2022年 4月 1日

発行者：日本シミュレーション医療教育学会 理事長
鈴木利哉

編集者：日本シミュレーション医療教育学会 広報担当理事
浅田義和・駒澤伸泰